

フィリピン共産党（PKP-1930）

十月大社会主義革命を讃える！

同志の皆さん

来る十一月三日、東京において一九一七年十月大社会主義革命一〇四周年記念集会を開催される活動家集団思想運動に対し、フィリピン共産党（PKP-1930）は厚い連帯のご挨拶を送ります。また、毎年各地において、この重要なできごとを記念する集会を実施される思想運動の皆さんに心からの敬意を表します。

一九一七年十一月七日における社会主義革命の勝利は資本主義打倒と社会主義建設という新時代が世界的にはじまったことを示すものであり、今なお現代史の重大事象でありつづけています。人類が数世紀のあいだ追求してきた、人間による人間の搾取や国家による国家の搾取のない社会の実現という悲願は、この革命によって現実のものとなったのです。

ロシアの革命的労働者と農民によって、資本家と地主による支配を打倒し、ロシア皇帝の王権を廃絶し、旧帝国内のすべての民族の自治権を発展させ、女性の平等を確固なものとするための前例が示されたのです。このできごとは、他の国ぐにの、中でも植民地諸国の労働者・人民を直ちに惹きつけるものとなり、民族および社会の解放をめざす闘争が各地ではじまりました。

一九三〇年におけるわが党の創立はこの十月大社会主義革命に鼓舞されたものであり、今年の十一月七日は党活動公然化九一周年にあたります。わが党は、本年十一月七日に、十月大社会主義革命一〇四周年および党活動公然化九一周年の記念集会をオンラインで実施します。

わたしたちはこの集会において、ソ連が社会主義革命以降切りひらいた多方面にわたる社会開発をあらためて想起することとしています。それらはたとえば、失業の解消、低廉な住宅や公共設備の利用および教育を基本的権利とすること、医療・社会サービスの無償化、有給産前産後休暇の拡大、誰もが科学、技術、スポーツ、文化、芸術など関心のある分野に参画できるようにすること、有給休暇中の国内旅行支援制度、退職後の快適な生活の実現などです。

旧ソビエト連邦や旧社会主義共同体におけるこういった進歩的システムの多くは、フィリピンのような新植民地主義による被抑圧国はもちろん、比較的発展した資本主義国でさえも今なお実現できていません。不幸なことに、ソ連および社会主義共同体の解体は、貧困を拡大するとともに少数の新興財閥の台頭を許す結果となりました。今ほど世界中で帝国主義に対抗し、社会主義をめざす闘争を発展させることが求められているときはありません。なぜならば、資本主義は本質的に、大多数の労働者・人民に対し搾取、失業、侵略、抑圧、屈辱をもたらすものであるからです。

十月大社会主義革命を讃えるのは、フィリピン共産党（PKP-1930）と思想運動が、労働者階級の利益を擁護するとともに資本主義の打倒と社会主義建設の闘争を前進させるという課題を

共有しているからです。同時に、無私の連帯の典型であるキューバをはじめとする社会主義諸国および社会主義志向諸国を擁護するという課題を共有するとともに、米国によるキューバに対する経済、商業、金融面における封鎖を終わらせ、グアンタナモ基地のキューバへの即時返還をめざすためにも闘っているからです。これらは、十月大社会主義革命の理想を守り、さらに前進させるための今日におけるわたしたちの実践のひとつにほかなりません。

十月大社会主義革命万歳！

社会主義をめざす共通の闘争万歳！

同志愛をこめて

フィリピン共産党（PKP-1930）書記長アントニオ・E・パリス

【翻訳＝木田誠也】